

研究だより No. 8

押水第一小学校

令和4年 10月 3日

9月29日 5年研究授業(茶木先生)より

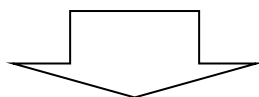
茶木先生に道徳科「流行おくれ」の授業をして頂きました。整理会で成果・課題・改善策について中能登教育事務所指導主事の石井先生より助言をいただきました。

視点1:友達と対話し、考えを深めるために、ゆさぶりや切り返して深めの発問をし、その後全体で交流する。

成果	<ul style="list-style-type: none">子どもたちが自然につぶやき、みんなで授業をつくるという意識があった。道徳的価値に触れられるような切り返しやゆさぶりの発問がたくさんあった。机間巡視での先生の見取りで効果的な発問ができ、子どもの思いを引き出すことができた。
課題	<ul style="list-style-type: none">ペアチャットで相手の話を聞いて問い返すなど会話を広げる力を伸ばすと、考えをより深めることができる。深めたいところに時間をかけることで、自分ごととして捉えて考え、価値にせまることにつながる。
改善策	<ul style="list-style-type: none">「～と思いました。わけは～からです。」などの話型や子ども同士が「どういうこと？」と聞き合う姿勢の定着を図る。アナログとICT端末での見取りを行う。一斉の活動だけでなく、1人1人のタイミングでの交流も取り入れることで個別最適な学びにつながる。

視点2:本時の学びを自覚するために、ふり返りの場を設定する。その際、「自分の生活を見直し、ものを大切にすること」についてふり返る。

成果	<ul style="list-style-type: none">子どもたちは視点をもってふり返りができた。
課題	<ul style="list-style-type: none">ふり返りに時間をかけることで、自分の変容をより感じられる。
改善策	<ul style="list-style-type: none">教師がコメントで自分の変容を感じられるように後押しできると、子どもたちの学びの自覚につながる。



明日から全員が実践すること

◎児童がやってみたい、対話をしてみたい、と思えるようなペアチャットの工夫(思考ツールや場の設定)をする。